

事例2

< 事例概要 >

- ① 70 歳代、乳癌・肺癌術後、転移性脳腫瘍に対し化学療法中、深部静脈血栓症に対しワルファリン内服中の入院患者。
- ② PT-INR の定期採血。
- ③ 医師は休暇中であったため、事前にオーダーしていたPT-INR > 5.8 (5.8 以上で測定不能) の検査結果の確認に至っていなかった。検査結果は医師が確認するルールのため、臨床検査部門から医師へのパニック値の報告はなかった。また、薬剤師は検査結果を確認したが疑義照会に至らず、ワルファリンは継続処方・投与された。患者は、約1週間後に嘔気が出現し、発語内容が不明になり、緊急CT検査の結果、脳出血と診断された。医師はこの時に、前回の検査結果を初めて確認した。
- ④ 脳出血診断から約7 時間後 (パニック値検出より約1 週間後) に死亡。
- ⑤ 死因は、脳転移巣からの出血による脳幹圧迫および脳室穿破による水頭症。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖無。